

臨床心理学専攻<カリキュラム・マップ>

科目名	到達目標	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5	
			専門知識	読解力	表現力	実践能力	研究力	
<p>臨床心理学に関する必要な専門知識を有する</p> <p>内外の先行研究を正確に読み取ることができる</p> <p>文章および口頭により、自身の考えを他者に論理的に伝達できる</p> <p>職業人もしくは研究者として必要とされる実践を行なえる</p> <p>自発的に研究課題を設定し、研究を遂行できる</p>								
専門基礎科目								
臨床心理基礎実習	臨床心理実習を行うため、そして臨床心理士として将来的に活動するための基本的な態度や技能、倫理等を会得する。	臨床心理実践の基本的態度や技能、倫理を学び、あわせて臨床心理実習に向けた事前指導を受ける。	○		○	○		
臨床心理学特論 (2023年度以前入学者)	将来心理専門職として活動していく上で、臨床心理学の全体像を把握し、今後何を学び身に付けていく必要があるかを理解し、自らの学びのテーマを定める。	臨床心理学の基礎を学ぶために、臨床心理面接、臨床心理査定、臨床心理地域援助、臨床心理学研究法の4つの柱について、それらの意義や課題等について考える。	○	○	○		○	
臨床心理学特論 I (2024年度以降入学者)	将来心理専門職として活動していく上で、臨床心理学の全体像を把握し、今後何を学び身に付けていく必要があるかを理解し、自らの学びのテーマを定める。	臨床心理学の基礎を学ぶために、臨床心理面接、臨床心理査定、臨床心理地域援助、臨床心理学研究法の4つの柱について、それらの意義や課題等について考えていく。	○	○	○		○	
臨床心理学特論 II (2024年度以降入学者)	将来心理専門職として活動していく上で、臨床心理学の全体像を把握し、今後何を学び身に付けていく必要があるかを理解し、自らの学びのテーマを定める。	臨床心理学の基礎を学ぶために、臨床心理面接、臨床心理査定、臨床心理地域援助、臨床心理学研究法の4つの柱について、それらの意義や課題等について考えていく。	○	○	○		○	
臨床心理面接特論 I (心理支援に関する理論と実践)	代表的な心理療法とカウンセリングの歴史、概念、意義等を概説できる。心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じて適切な支援方法を選択・調整することができる。	力動論に基づく心理療法の理論と方法、行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法、相談、助言、指導等への上記の応用、心理に関する適切な支援方法の選択・調整を学ぶ。	○		○	○		
臨床心理面接特論 II	臨床心理面接の基礎となる理論と方法の効果やプロセスについて説明でき、試行カウンセリングを継続して実施し、その内容を事例報告や逐語記録としてまとめ報告できる。	カウンセリングや心理療法など臨床心理面接の基礎となる理論と方法を学び、あわせて臨床心理面接の態度やスキルを共有するための実習やディスカッションを行う。	○		○	○		
臨床心理査定演習 I (心理的アセスメントに関する理論と実践)	公認心理師の実践における心理的アセスメントの意義を概説でき、その理論と方法について理解し実践することができ、心理に関する相談、助言、指導等へ上記を応用できる。	心理的アセスメントの意義と基礎理論を学び、発達検査、性格検査、知能検査等から代表的な検査を取り上げ、正しい実施方法や検査結果の解釈、記録及び報告の方法を学ぶ。	○	○	○	○		
臨床心理査定演習 II	心理的アセスメントで用いる主要な検査の実施と基礎的な解釈を行うことができる。心理に関する相談、助言、指導等へと心理的アセスメントの結果を展開することができる。	心理的アセスメントの中核的技法である心理検査法について、検査結果の総合的な解釈と心理的援助の計画立案へと学習を進める。	○	○	○	○		
臨床心理実習 I (心理実践実習)	心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握、支援計画の作成、チームアプローチ、多職種連携及び地域連携、心理専門職としての職業倫理及び法的義務を理解する。	保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5分野の内、保健医療領域の医療機関での実習を含め3分野以上の施設での実習、見学や学内臨床心理相談室でも実習を行う。	○		○	○		
臨床心理実習 II	臨床心理士・公認心理師など心理専門職として活動するための基本的な態度や技能、倫理等を学習する。臨床心理実践でのクライアント理解、対応、事例報告等基本を理解する。	臨床心理実践の基本的態度や技能、倫理を学び、事前指導を受ける。学内臨床心理相談室や学外専門機関での実習で関わった事例を通して臨床心理実践の基本事項を習得する。	○		○	○		
専門展開科目								
1. 研究法科目：臨床心理の基礎となる研究方法を学ぶ科目								
心理学研究法特論	大脳機能障害の事例を通して脳の損傷と行動の直接的な関係を理解する。単一事例研究法、応用行動分析、神経心理学的心理検査法を通して臨床的な研究法の基礎を理解する。	神経心理学的な観点から大脳機能の基礎を学び、後天性大脳期障害である高次脳機能障害を通して脳と行動の直接的な関係を学ぶ。その事例を通して研究法の基礎を理解する。	○	○			○	
データ分析法	R言語を用いて演算スクリプトを書くようになること、多変量解析の諸技法に関する理解を深め、統計量を適切に解釈できるようになる。	R言語(統計解析ソフトウェア)を用いてミニチュアデータを分析し、多変量解析の基礎的技法と最新の技法を詳しく学ぶ。	○	○		○		
臨床心理学研究法特論	臨床心理学研究法を体系的に理解し、リサーチクエスションの構造化および仮説に基づく研究計画を立てることができる。	科学者-実践家モデルの基盤となる研究方法論として、量的研究、質的研究、研究の進め方、各方法のガイドラインについて学ぶ。	○	○			○	
2. 基礎心理科目：臨床心理の基礎となる心理学科目								
認知心理学特論	認知心理学の様々な研究や理論について理解するだけでなく、それらの知識を様々な現場で応用できる力を身に付ける。	感覚・知覚認知、注意、記憶などの主要なテーマに加えて、感性認知、日常認知、認知と感情などの問題について、それらの知識と考え方を学ぶ。		○				
教育心理学特論	発達、教授・学習・認知、社会、人格、臨床、特別支援、学校心理学、測定・評価・研究法などの教育心理学の全体を俯瞰し、教育心理学研究の理論や手法を学び、理解する。	教育心理学研究の全体像と動向、実践活動との関わりについて学ぶ。	○	○	○			
発達心理学特論	人に援助することにおいて生涯発達臨床的な視点を有すること。自身の人間関係の発達や行動パターンについてロールプレイング体験をもとに気づきを得られる。	生涯発達心理学の観点から、発達期に起こる心理的諸問題について学ぶ。また心理的な問題に対する心理的援助についてその理論や支援方法を理解する。	○	○		○		
3. 家族・社会心理科目：家族や社会の心理的問題を探究する科目								
社会病理学特論	社会病理学の基本的な考え方や諸理論についての理解を深める。また、心理専門職にはどのような支援が求められているのかを理解し、その支援方法を習得する。	様々な精神病理現象の解明に向けて、人間の内に焦点を当ててのが伝統的心理学の基本的な考え方である。それに対して社会病理学は、社会学の流れを汲んでおり、個々人の精神病理現象の解明においても、その人々を取り巻く社会的な要因の影響を重視する。この授業では、自殺、犯罪、摂食障害などの精神病理現象を取り上げ、それらの背景にはどのような社会的要因があるのかを検討する。	○		○	○		
家族心理学特論	生涯発達における家族の変化について、多視点から理解を深める。また、人間発達の視点をふまえた心理学的研究に必要な手法(計画立案、実施、分析)を習得する。	家族関係や家族の発達に関連する研究論文(英文)を講読。各受講生は担当部分のプレゼンテーションし、その内容について、受講者全体でディスカッションを行う。	○	○	○			
犯罪心理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	司法、犯罪分野における諸問題に対して公認心理師の視点から支援について説明できる。さらに、実際の支援・実践策を構築、提供できる。	司法、犯罪分野に関わる理論を概観し、次に心理師としての関与の方法、支援策について学ぶ。	○			○		

科目名	到達目標	科目概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	
			専門知識	読解力	表現力	実践能力	研究力	
			臨床心理学に関する必要な専門知識を有する	内外の先行研究を正確に読み取ることができる	文章および口頭により、自身の考えを他者に論理的に伝達できる	職業人もしくは研究者として必要とされる実践を行える	自発的に研究課題を設定し、研究を遂行できる	
4. 関連専門領域科目：臨床心理と深い関連を持つ専門分野の科目								
精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	人間のライフサイクルと精神発達、精神疾患を症候学的分類に基づいて体系的に理解する。精神医療において公認心理師が担うべき役割について理解する。	ライフサイクルと精神発達、代表的な精神疾患とその治療に関する知識を習得し、保健医療分野における理論と支援について学ぶ。	○	○	○	○		
障害者(児)心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	小児の障害や成人の障害といった対象領域を超えた観点から発達障害を捉え、脳の機能的障害が小児と成人において共通のメカニズムで生じることを学ぶ。	学習障害、注意欠陥/多動性障害、発達性協調運動障害、知的発達障害等を臨床発達神経心理学の立場から学ぶ。発達障害児への対応方法を障害機序を通じた観点から理解する。	○	○	○			
産業・労働分野に関する理論と支援の展開	職場における諸問題を個人と組織の観点から理解し、必要な心理的支援を計画することができる。また、法規制や一般的な人事制度の説明ができる。	産業・労働分野における諸問題に対して必要な心理的支援を学ぶとともに、実践で求められる思考力、判断力、倫理観について理解を深める。	○			○		
児童福祉特論	子どもと家庭がおかれている現状を把握する。子ども家庭福祉、教育とそれに関連する研究論文を読み解き、学際的な検討を行う。	文献の検討を通して、広く社会構造の中で子ども・家族をとらえ直し、その求められる役割と機能等について社会福祉の立場から考察を深める。	○	○				
高齢者福祉特論	老いの文化論、老年社会学、高齢者福祉論などに関する研究論文や実践事例を取り上げ、高齢者福祉研究のあり方を展望する。	高齢者福祉関連分野の研究を通して、老いをめぐる諸説を整理し、その特質を理解する。さらに、高齢者福祉研究方法論の再構築を試みる。	○	○				
5. 専門技能科目：臨床心理の専門技能を深く学ぶ科目								
教育分野に関する理論と支援の展開	教師の専門性とは異なる視点から、わかりやすくコンサルテーションができる。	学校という組織の特徴とその中で行う相談活動の実際を学ぶ。学校現場で求められる専門的かつ役立つ知識・スキルを習得する。		○	○	○		
グループ・アプローチ特論	グループ・アプローチへの理解を深めるとともに、あらためて自己理解を深め、人間理解を深め、グループ・ファシリテーターとして必要な視点や態度を習得する。	グループ・アプローチの発展、意味、形態、適用、理論を概観した上で、臨床場面における治療的/教育的/成長傾向のグループ・アプローチの意義と実際を学習する。	○		○	○		
家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	家族関係がもたらす精神病理に関する理論的理解を深め、心理学的支援の方法を習得する。学校コミュニティや地域社会での心理学的支援の方法を習得する。	人間集団に対する心理学的支援に関する理論的背景と、それを基にした各種支援の実践について体系的に学ぶ。	○	○	○	○		
投射法特論	ロールシャッハ法における量的分析と継起分析、内容解釈について、具体的、体験的に学び、他のテスト・バッテリー等も加えて、精神力動的な心理アセスメントを習得する。	投射法の代表としてのロールシャッハ・テストについて、その基本的理解から臨床的活用の意義、有用性について学ぶ。	○		○	○		
心の健康教育に関する理論と実践	心の健康教育に関する理論を理解し、実践に必要なスキルを身に付ける。	心理教育やグループアプローチを重視し、その理論（主に認知行動療法の理論）を学ぶ。役割演技を通して、心の健康教育の実践のためのスキルを向上させる。	○	○	○			
力動的心理学特論	力動心理療法の治療過程について学ぶ。治療者-患者間の治療契約を基軸として、治療契約、退行、転移逆転移、抵抗、解釈、契約の終結について理解する。	力動的心理学の基本を学ぶ。	○	○	○	○		
心理療法特論	心理療法に共通する基本原理や治療構造、技法を理解し、説明することができる。さらに、統合的な心理療法の視点を理解する。	これまでにエビデンスに支持された心理療法やプロセスベースセラピーについて、他の心理療法との相違の観点から議論し理解を深める。	○	○	○	○		
心理臨床演習	子どもの心理療法において何が起きているかの基本的な理解ができ、どのように対応したらよいかのおおよその見当がつくようになる。	子どもの心理療法に関する基本的な理論と技法、そして実際を学ぶ。	○	○		○		
医療心理学特論	医療現場における心理臨床家の姿勢・役割を理解するとともに、現場に必要な精神医学的知識、幾つかの心理療法の理論と具体的な介入の仕方について理解する。	医療現場における心理学的アプローチ、心理臨床家の姿勢、役割について学ぶ。	○	○	○	○		
研究指導科目								
論文研究指導	臨床心理学を研究テーマとする修士論文を完成させるために必要な知識、研究方法、論文執筆力を習得する。	修士論文に向けて問題意識を明確にした上で先行研究を概観し、質問紙調査、面接調査等を行い、修士論文を完成する。	○	○	○		○	